

あら りゅういき まつ 荒川流域で祀られている水の神様

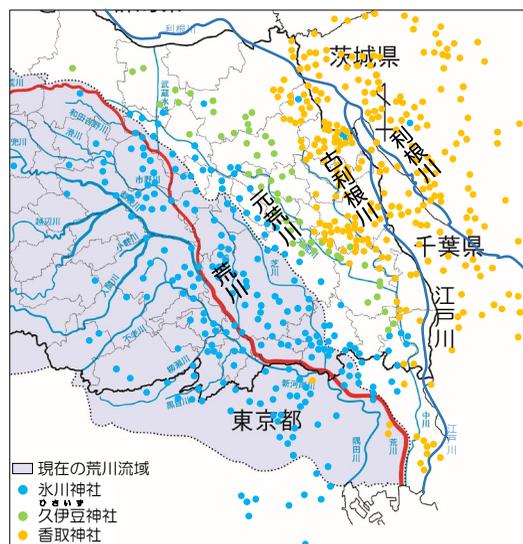
うしがみさま
古くから周辺の氏神様として親しまれてきました。



むさしのくに ひかわ
武蔵国一の宮 大宮氷川神社



みずじんじや ねづのう ししがしら
水神社に奉納されている獅子頭は、秋の祭の時に見ることができます



あら りゅういき ひかわ
荒川流域に多く分布する氷川神社

あら りゅういき 荒川流域の神社

荒川の流域には多くの神社が点在しており、氷川神社や、雷電神社、大杉神社、金毘羅神社（琴平神社）といった神社があります。中でも氷川神社は東京都、埼玉県の荒川流域、特に元荒川と多摩川の間によく分布しています。また、利根川流域には香取神社が、元荒川筋と利根川の間には久伊豆神社が分布しています。

古代は各河川の区切りによって宗教圏が異なり、神社も地域的にまとまって分布したと考えられています。

氷川神社は荒川流域の氏神様

氷川神社は埼玉県に162社、東京都に59社、茨城県、栃木県、北海道に各2社、神奈川県、千葉県に各1社と、旧荒川流路を含む荒川流域に集中して分布します。その総本社が大宮に鎮座する大宮氷川神社（武蔵国一の宮）となっています。大宮氷川神社は大宮台地東端に位置し、かつてはその裾野に沼沢地が広がり、その中でも最も広く水量豊富な「見沼」に面していました。

大宮氷川神社の創建は社伝によると紀元前473年とされています。時代は縄文から弥生に変わるころで、当初は社殿などなく、時に暴れる見沼の水神を鬱蒼とした氷川の森に定期的に迎え、開拓民をこそつてもてなす氏神として見沼周辺の開発を支えてきたと思われます。



大宮氷川神社の拝殿

戸田市の水神社

創立など詳しいことはわかりませんが、正面の「水神宮」の碑には1796（寛政8年）の銘があります。

古くは荒川の端にあったもので、新堤防ができてから移され、川岸に住む人々の氏神様のようになっています。

境内の正面には、「水神宮」や「船玉大明神」（船の守り神）と刻まれた大きな石碑が鎮座しています。また、「山王大神」や、茨城県の大杉神社から勧請した「大杉大神」（航海安全の神）などの石碑も合祀されています。

この神社の祭礼は、7月14日、15日ですが、最近ではその日に近い日曜日に行われています。この祭礼のときに飾られる獅子頭は、もとは荒川のそばにあった羽黒社に古くから伝えられてきたものです。色や形、大きさとも威容を誇る獅子頭で、市の指定文化財となっています。昔は、その年にはじめて採れた胡瓜をこの水神社に供え、この後に荒川に流してからでないと泳ぐことができないとされていました。



水神宮や船玉大明神と刻まれた大きな石碑

川によって異なる氏神様

利根川、古利根川流域に多いのは「香取神社」です。船を扱う人々が信仰した神社で、千葉県佐倉市の香取神社を本社とし、埼玉県に119社、茨城県に214社、千葉県に71社、東京都に15社分布しています。この分布の西の限界が元荒川であり、氷川神社と香取神社の境界をなす元荒川筋には「久伊豆神社」が分布しています。その本社は不明ながら、かつて「久伊豆明神」と称していた騎西町騎西の「玉敷神社」と目されています。また、これは元荒川の左岸側が久伊豆神社、右岸側が氷川神社ということでもあります。

アクセス

みずじんじや
水神社

交通：JR埼京線「戸田公園駅」下車、徒歩約10分

住所：埼玉県戸田市川岸1丁目

